

平成27年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第63回総会（平成27年6月4日～6日）
会場：京王プラザホテル
会長：二木芳人（昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門）
2. 第62回東日本支部総会（平成27年10月21日～23日）
会場：ロイトン札幌
会長：坂田 宏（旭川厚生病院小児科）
3. 第63回西日本支部総会（平成27年10月15日～17日）
会場：奈良春日野国際フォーラム薨～I・RA・KA～、奈良ホテル
会長：三笠桂一（奈良県立医科大学感染症センター）
4. 本年関連国際学会として
ICAAC/ICC 2015
平成27年9月17日～21日（サンディエゴ）

B) 会務

1. 年度末正会員数 7,471名
年度末賛助会員数 26団体、団体会員数 153団体
2. 平成27年度評議員会、同定期総会は平成27年6月5日に京王プラザホテルで開催された。
3. 新評議員（平成27年4月～平成28年3月）
東日本支部11名（現在 228名）
池谷 修（慶應義塾大学病院薬剤部）
遠藤 史郎（東北大学病院検査部）
小野寺直人（岩手医科大学附属病院医療安全管理部感染症対策室）
片山 由紀（順天堂大学医学部微生物学講座）
菊地 利明（新潟大学大学院医歯学総合研究科呼吸器・感染症内科学分野）
継田 雅美（新潟薬科大学薬学部 臨床薬学研究室）
前澤佳代子（国際医療福祉大学薬学部）
前田 真之（昭和大学薬学部薬物療法学講座感染制御薬学部門）
松井 秀仁（北里大学北里生命科学研究所感染制御研究センター）
三浦 剛（城西国際大学薬学部医療薬学科薬物治療学研究室）
山口 禎夫（栃木医療センター感染アレルギー科・臨床研究部）

西日本支部 11名（現在 198名）

猪川 和朗（広島大学大学院医歯薬保健学研究院臨床薬物治療学）

梅木 健二（大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座）

岡田 隆文（四国こどもとおとなの医療センター小児科）

北原 隆志（長崎大学病院 薬剤部）

鈴木 崇（愛媛大学大学院医学系研究科眼科学）

辻 泰弘（富山大学大学院医学薬学研究部医療薬学研究室）

津村 直幹（久留米大学医学部小児科）

西村 信弘（島根大学医学部附属病院薬剤部）

宮田 一平（川崎医科大学小児科学講座）

村木 優一（三重大学医学部附属病院薬剤部）

矢寺 和博（産業医科大学呼吸器内科）

4. 理事会 6回開催

平成27年5月、6月（2回）、9月、12月、平成28年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 清田 浩）

・編集委員会 6回開催

・編集状況

平成27年 第63巻3号～6号

一般誌 4冊（掲載論文数 22編）

平成28年 第64巻1号～2号

一般誌 2冊（掲載論文数 12編）

その他編集中 2冊

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 松本哲哉）

・編集委員会 6回開催

・編集状況

平成27年

Vol. 21 No. 4～12（掲載論文数 119編）

平成28年

Vol. 22 No. 1～3（掲載論文数 37編）

・査読システムの変更を行った。

・JIC Award受賞

中根 孝彦 他（The Japan Febrile Neutropenia Study Group）

「Cefozopran, meropenem, or imipenem–cilastatin compared with

cefepime as empirical therapy in febrile neutropenic adult patients:
A multicenter prospective randomized trial」
(Vo.21 No. 1 p.16~22)

3) 用語委員会 (委員長 清田 浩)

抗菌化学療法オンライン用語集の用語の整理を行った。

2. 学術委員会 (委員長 三笠桂一)

- ・認定学術集会 申請 20 件 認定 20 件 (平成 26 年度 申請 23 件、認定 23 件)
- ・学術奨励賞受賞者

第 63 回総会

堀山 つかさ (塩野義製薬株式会社コア疾患創薬研究所感染症部門)

「マウス局所感染モデルにおける新規注射用シデロフォアセファロスポリン系
抗菌薬 S-649266 の治療効果」

伊藤 明広 (倉敷中央医療機構倉敷中央病院 呼吸器内科)

「集中治療室にて治療を行った市中肺炎患者における β ラクタム系抗菌薬と
マクロライド系抗菌薬併用療法の有用性の検討」

日本化学療法学会雑誌 第 63 巻 3 号 p. 343-349

家田 健史 (順天堂大学大学院泌尿器外科学講座)

「尿路感染症主要原因菌のフルオロキノロン系抗菌薬を中心とした薬剤に対する
感受性および *gyrA*・*parC* における QRDR の遺伝子変異の解析」

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.21 (2) p. 849-856

鈴木 広道 (筑波メディカルセンター病院感染症内科)

「Prospective intervention study with a microarray-based, multiplexed,
automated molecular diagnosis instrument (Verigene system) for the rapid
diagnosis of bloodstream infections, and its impact on the clinical
outcomes」

3. 学会賞選考委員会 (委員長 尾内一信)

志賀潔・秦佐八郎記念賞および平成 27 年度に新設された上原感染症・化学療法研究
奨励賞の候補者について検討し選考を行った。

志賀潔・秦佐八郎記念賞

受賞者：上原 すゞ子 (千葉大学、埼玉医科大学小児科)

研究テーマ：「小児細菌感染症の病原診断と抗菌薬治療、予防に関する研究」

上原感染症・化学療法研究奨励賞

受賞者：鹿山 鎮男 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科 細菌学教室)

研究テーマ：「ステルス型を示すカルバペネム耐性菌の耐性メカニズム」

4. 国際渉外委員会 (委員長 川名明彦)

- ・海外派遣奨学費の候補者について検討し、選考を行った。
- ・関連国際会議として、平成27年9月17日～21日にICAAC/ICC 2015が開催された。
- ・海外派遣奨学費の規程を一部、変更した。

5. ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

当学会が設定している抗菌薬ブレイクポイントに関して、感受性分布成績、PK/PD データ、実験成績、臨床効果などを参考に見直し作業を継続して行った。

6. PK/PD 検討委員会（委員長 木津純子）

平成26年5月にPMDAおよび厚生労働省へ再提出した「PK-PDガイダンス」の回答が届き、厚生労働省から平成27年12月25日付で「抗菌薬のPK/PDガイドライン」として通知が発令された。また委員会報告として、このガイドラインを日本化学療法学会雑誌第64巻 2号に掲載した。

7. 未承認薬検討委員会（委員長 二木芳人）

コリスチン検討部会、高用量ピペラシリン検討部会、注射用メトロニダゾール検討部会はそれぞれ当初の目的を達成したので活動を終了とした。

8. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会（委員長 後藤直正）

1) 指導者制度講習会を3回開催した。

- ・第54回講習会：平成27年6月5日

第63回総会 シンポジウム6（京王プラザホテル）

- ・第55回講習会：平成27年10月16日

第63回西日本支部総会 教育講演1・2（奈良春日野国際フォーラム）

- ・第56回講習会：平成27年10月23日

第62回東日本支部総会 ワークショップ3（ロイトン札幌）

2) 新規申請、更新申請の受付と指導医試験を行い、9月1日付で指導医・指導者ならびに認定医の新規申請者（指導医2名、認定医5名）、認定更新者（指導医6名、認定医3名）を認定した。

9. 抗菌薬適正使用生涯教育認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催

年次テーマ：Antimicrobial Stewardship Program の包括的概念と各論的 strategy の理解

第34回 平成27年6月4日（木）京王プラザホテル

第35回 平成27年8月29日（土）東京国際フォーラム

第36回 平成27年10月15日（木）奈良春日野国際フォーラム

第37回 平成27年10月21日（木）ロイトン札幌

- ・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナー

東京 平成27年11月1日（日）日内会館

奈良 平成27年11月8日（日）奈良県文化会館小ホール

神戸 平成27年11月16日（日）神戸大学医学部附属病院大講義室

福岡 平成27年11月29日（日）福岡大学病院 多目的室1・2

札幌 平成 28 年 1 月 24 日（日） 札幌医科大学記念ホール

- ・委員会を数回開催した。
- ・第 35 回 1 日コースを映像収録し、教育資材として DVD を作成した。
- ・平成 27 年 12 月 6 日（日） 第 5 回指導医試験を実施した。
- ・本年度指導医・認定医・認定歯科医師新規申請、認定更新申請を受付し、平成 28 年 1 月 1 日付けで認定した。

新規申請：指導医 53 名、認定医 104 名、認定歯科医師 18 名

更新者： 指導医 43 名、認定医 128 名、認定歯科医師 12 名

10. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 森田邦彦）

- ・抗菌化学療法認定薬剤師講習会を開催した。
 - 第 13 回 平成 27 年 5 月 22 日（金）長野・キッセイ文化ホール
 - 第 14 回 平成 27 年 11 月 20 日（金）パシフィコ横浜
- ・認定薬剤師試験を平成 28 年 2 月 7 日に実施した。
- ・平成 28 年 3 月 1 日付で認定薬剤師（新規申請者 123 名、更新者 70 名）を認定した。

11. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 渡辺 彰）

1) 第 3 回（2011 年）

耳鼻咽喉科領域（初回・628 株）

論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) (2015;21(7): 483-491)に掲載した。

2) 第 4 回（2012 年）

- ・呼吸器感染症（6 回目・1236 株）

論文を執筆し、Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) への投稿を準備中である。

- ・尿道炎（2 回目・淋菌・103 株）

論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) (2015;21(5): 340-345)に掲載した。

- ・尿道炎（クラミジア）（2 回目・39 株）

感受性測定結果を報告書にまとめ、成績を日本臨床微生物学会（2016 年 1 月・仙台）で報告し、第 1 回（2009 年）で収集した 19 株と合わせて論文を執筆した。

3) 第 5 回（2013 年）

- ・皮膚科領域（初回・726 株）

感受性測定結果を報告書にまとめ、日本感染症学会（2015 年 4 月・京都）、日本化学療法学会（2015 年 6 月・東京）、日本臨床微生物学会（2016 年 1 月・仙台）で報告し、論文を執筆中である。

- ・歯科口腔外科領域感染症（初回・817 株）

30 薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書を作成中である。

感受性測定結果を日本感染症学会（2015 年 4 月・京都）、日本化学療法学会（2015 年 6 月・東京）、日本臨床微生物学会（2016 年 1 月・仙台）で報告した。

- 4) 第6回 (2014年)
 - ・呼吸器感染症 (7回目・1,560株)
44 薬剤の感受性を測定し、結果を解析中。
 - ・手術部位感染 (SSI) (2回目・906株)
37 薬剤の感受性を測定中。
- 5) 第7回 (2015年)
 - ・複雑性尿路感染症 (3回目)
全国 52 施設で 2016 年 3 月末に菌株の収集を終了した。
 - ・急性単純性膀胱炎 (2回目)
2015 年 12 月末に全国 37 施設より 403 症例の検体を収集し、分離・同定中。
 - ・耳鼻咽喉科領域
全国約 60 施設で 2017 年 3 月末まで 1,000 株を目標に収集中。
- 6) 第8回 (2016年)
 - ・呼吸器感染症 (8回目)
全国約 55 施設で 2017 年 3 月末までに 1,000 株を収集する。
 - ・尿道炎 (淋菌・クラミジア) (3回目)
全国約 45 施設で 2017 年 6 月末までに淋菌、クラミジアをそれぞれ 200 症例の検体を収集する。
- 7) 2015 年 6 月三学会合同抗菌薬感受性サーベイランスの独自のホームページを開設した。ホームページアドレス (URL) : <http://www.3ssp.jp>

12. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会 (委員長 河野 茂)

厚生労働省より、平成24年6月に提出した「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」最終案について回答があり、委員で検討を行った。

13. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会 (委員長 三嶋廣繁)

嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂版で示す実用的な臨床検査法の概略を決定した。

14. レジオネラ治療薬評価検討委員会 (委員長 宮下修行)

レジオネラの診断と治療に関するアンケート調査の最終結果を日本化学療法学会雑誌に投稿し、第 64 巻 1 号に委員会報告として掲載された。

15. チゲサイクリン適正使用のための手引き作成委員会 (委員長 柳原克紀)

年間50例以下の少ない処方数であり、「チゲサイクリン適正使用のための手引き」の遵守状況の調査は難しいと判断し、実施しなかった。

16. コリスチンの適正使用に関する指針改訂委員会 (委員長 二木芳人)

コリスチンの適正使用に関する指針のパブコメを求め、改訂版を発表した。また、適正使用のための臨床医向けの DVD 作成を監修し、本事業を終了した。

17. 呼吸器感染症臨床評価法の改訂委員会 (委員長 河野 茂)

- ・委員会を 2 回、開催した。

平成 27 年 6 月 5 日 第 4 回委員会開催（東京）

平成 27 年 10 月 15 日 委員会報告（第 63 回西日本支部総会）

- ・過去の臨床試験データによる検証結果を取りまとめ、呼吸器感染症臨床評価法の改訂案を作成した。改訂案について、第 63 回日本化学療法学会西日本支部総会にて報告した。

18. 泌尿器感染症臨床評価法の改訂委員会（委員長 荒川創一）

厚生労働省に改訂案を提出している 2012 年のガイダンスについて、国際ハーモナイゼーションの観点から、FDA ガイダンス等との整合性等を勘案しつつ、より実用性が高くグローバル試験に耐えうるものにブラッシュアップするべく、それらの作業を進めるための委員会を複数回、開催した。

19. 尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン改訂委員会（委員長 荒川創一）

「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン—第 2 版—」を第 1 版から改変して刊行するべく、議論を進めた。必要な改変点を、国際ハーモナイゼーションの観点から FDA ガイダンス等を参照して決定し、より実用性が高いものにブラッシュアップした。それらの作業を進めるための委員会を複数回開催した。第 2 版ドラフトを学会 HP に掲載し、パブリックコメントを聴取した。

20. 抗菌薬 TDM ガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

日本 TDM 学会と合同で「抗菌薬 TDM ガイドライン改訂版」を作成し、学会誌およびホームページに公表する準備を行った。

21. JAID/JSC 感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 青木信樹）

呼吸器感染症の JAID/JSC 感染症治療ガイドラインの英語版を Journal of Infection and Chemotherapy に投稿し、腸管感染症および尿路感染症・男性性器感染症のガイドラインを日本化学療法学会雑誌 64 巻 1 号に掲載した。

22. MRSA 感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 二木芳人）

内容の見直しを行い、TDM に関する記載の修正が必要との意見があったが、TDM のガイドラインの正式の修正を待って、次年度の修正版に反映することになった。

23. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

日本外科感染症学会と合同で「術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン」を作成し、日本化学療法学会雑誌 64 巻 2 号（3 月）に掲載して、冊子版およびポケット版の作成を行った。

24. 小児用キノロン薬適正使用推進委員会（委員長 渡辺 彰）

感受性サーベイランス菌株収集を行った。

25. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ（委員長 河野 茂）

平成 27 年 12 月 19 日（土）に東京国際フォーラムで、第 3 回目となる「耐性菌シンポ

ジウム2015「1年を総括して来年に備える」を開催し、約400名の参加があった。また、当学会ホームページに講演内容を動画で掲載した。

開会の挨拶 河野 茂（長崎大学）

第一部：CREの難しさ 産生しても感性，産生しなくても耐性！？

司会：岩田 敏（慶應義塾大学）、賀来 満夫（東北大学）

1. 世界規模で広がるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌
矢野 寿一（奈良県立医科大学）.
2. カルバペネム耐性腸内細菌科細菌検出のピットフォール
菅井 基行（広島大学）

第二部：アウトブレイクを経験して

司会：二木 芳人（昭和大学）、舘田 一博（東邦大学）

1. カルバペネム耐性菌感染症のアウトブレイクを経験して
泉川 公一（長崎大学）
2. 新しい治療薬開発の現状と方向性
三嶋 廣繁（愛知医科大学）

閉会の挨拶 門田 淳一（大分大学）

26. 創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

提言第2弾「世界的協調の中で進められる耐性菌対策」を発表した。また創薬促進を進めるための土台創りとして、学会—アカデミア—行政—製薬企業の連携を深める活動を実施した。行政への働きかけに関しては、日本版GAIN法、薬価の問題、臨床治験に関して担当者への情報提供を行った。

27. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 二木芳人）

Antimicrobial stewardshipを日本で感染症専門医、感染症領域における専門・認定の薬剤師・看護師・検査技師等がチームを組んでどのように推進していくのか検討を始め、平成28年2月には創薬促進委員会との合同で「世界的協調の中で進められる耐性菌対策」の8学会の提言を厚生労働省、文部科学省および経済産業省の各大臣宛に提出した。また、当委員会として「抗菌薬適正使用支援（Antimicrobial Stewardship: AS）プログラム推進のために」の提言の検討を行った。

28. 将来計画検討委員会（委員長 岩田 敏）

平成26年度で終了した上田記念感染症・化学療法研究奨励賞にかわる新しい学会賞（上原感染症・化学療法研究奨励賞）を立ち上げ、規定および募集要項などを検討した。

29. 特定費用準備資金検討ワーキング（委員長 清田 浩）

- 1) 薬剤耐性菌蔓延予防を目的とした社会啓発事業

12月19日に東京国際フォーラムで「薬が効かない感染症の時代」がやってくる2015～忍び寄る薬剤耐性菌の恐怖～」と題して市民公開講座を開催した。また、講演内容を2月8日に日本経済新聞社の広告として掲載し、当学会ホームページには掲載紙およびパネルディスカッションを除いた動画を掲載した。

2) 特定感染症全国サーベイランス事業に関する事業

前年度実施の「*Clostridium difficile* 感染症 “1 日” 多施設共同研究」の解析および小児用キノロン系抗菌薬の適正使用に関するサーベイランス事業を行った。

**30. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会
(委員長 堀 誠治)**

平成 28 年 1 月 18 日に第 1 回の委員会を開催し、今後の進め方について検討を行い、「薬剤耐性菌 (AMR) 感染症を対象とした抗菌薬臨床評価ガイドライン」の叩き台を作成した。

31. 利益相反委員会 (委員長 河合 伸)

日本医学会の「医学研究の COI マネージメントに関するガイドライン改訂版」を参考にし、COI 指針および細則の一部変更した。

32. 研究倫理委員会 (委員長 木津純子)

研究倫理委員会規定および細則、必要書類の様式について提案され承認された。

33. インфекションコントロールドクター (ICD) 制度

平成 27 年 12 月 認定者 53 名

(2) 平成 27 年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

平成28年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第64回総会（平成28年6月9日～11日）
会場：神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル
会長：荒川創一（三田市民病院）
2. 第63回東日本支部総会（平成28年10月26日～28日）
会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
会長：徳江 豊（群馬大学医学部附属病院感染制御部）
3. 第64回西日本支部総会（平成28年11月24日～26日）
会場：沖縄コンベンションセンター
会長：青木洋介（佐賀大学医学部附属病院感染制御部）
4. 本年関連国際学会として
16th Asia Pacific Conference on Clinical Microbiology and Infection
平成28年11月30日～12月3日（メルボルン）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年6回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、
内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
・6冊発行予定（64巻3～6号、65巻1～2号）
・編集委員会を隔月開催する。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
・電子版を12号、冊子版を2号合併号として6冊発刊予定。
・編集委員会を隔月開催とする。
・JIC賞の選考を行う。
- 3) 用語委員会
略語の申請の依頼があれば適宜、対応する予定である。

2. 学術委員会

- ・認定学術集会の認定作業を行う。
- ・学術奨励賞を選考する。

3. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞および上原感染症・化学療法研究奨励賞の選考を行う。

4. ブレイクポイント臨床応用検討委員会

フルオロキノロン系抗菌薬に関して新しいブレイクポイントを設定し、ホームページでパブリックコメントを求め、本成績をCLSI、EUCASTのブレイクポイントとともに発表し、パブリックコメントを求める。また引き続きカルバペネム系抗菌薬のブレイクポイント見直し作業を実施し、可能であればこれらも発表していく。パブリックコメントののち、冊子体として出版することも視野に継続した活動を行う。また、臨床微生物学会の国際委員会との連携で、CLSI会議への参加、ブレイクポイント、診断法に関連する新しい情報を収集し、学会員への情報のフィードバックに努める。

5. 未承認薬検討委員会

- ・高用量クラリスロマイシン検討部会

高用量クラリスロマイシンの臨床的意義を明らかにし承認に向けて産官学合同で取り組む予定である。また肺炎に対して瀬踏みの臨床試験を現在実施中であり、症例の集積と評価を持って今後の方針を検討予定である。

6. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会

- 1) 指導者制度講習会開催予定（年3回：第57回、第58回、第59回）
第64回総会：平成28年6月10日（神戸）
第63回東日本支部総会：平成28年10月（新潟）
第64回西日本支部総会：平成28年11月（沖縄）
- 2) 新規申請、更新申請を受け付ける
- 3) 8月末までに新規申請者の指導医・指導者の試験を実施する

7. 抗菌薬化学療法認定医認定制度審議委員会

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定
年次テーマ：「医療関連感染のコンサルテーション対応：診断・治療・ASP」
第38回 平成28年6月9日（木）神戸国際会議場
第39回 平成28年8月27日（土）東京国際フォーラム
第40回 平成28年10月 朱鷺メッセ
第41回 平成28年11月 沖縄コンベンションセンター
- ・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナーを東京、札幌、神戸、奈良、福岡で開催予定
- ・委員会を数回開催予定
- ・1日コースのビデオを作製し教育資料として販売する
- ・10月末に指導医・認定医・認定歯科医の認定申請締め切り、指導医認定試験願書の締め切り

- ・指導医認定試験実施および認定のための作業を行う
- ・平成 29 年 1 月 1 日付けで認定

8. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師講習会の開催
 - ・第15回 平成28年5月27日 栃木文化ホール
 - ・第16回 平成28年9月16日 国立京都国際会館
- 2) 認定薬剤師試験実施
認定薬剤師申請者の試験を行い、平成28年3月1日付けで認定する。
- 3) 薬剤師講習会用テキストの改訂・発行をする予定である。

9. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

- 1) 第 4 回 (2012 年)
 - ・呼吸器感染症 (6 回目・1236 株)
論文を *Journal of Infection and Chemotherapy (JIC)* に掲載する。
 - ・尿道炎 (クラミジア) (2 回目・39 株)
成績を日本感染症学会 (2016 年 4 月・仙台)、日本化学療法学会 (2016 年 6 月・神戸) で報告し、論文を英文誌に掲載する。
- 2) 第 5 回 (2013 年)
 - ・皮膚科領域感染症 (初回・860 株)
論文を *Journal of Infection and Chemotherapy (JIC)* に掲載する。
 - ・歯科口腔外科領域感染症 (初回・726 株)
論文を *Journal of Infection and Chemotherapy (JIC)* に掲載する。
- 3) 第 6 回 (2014 年)
 - ・呼吸器感染症 (7 回目・1,560 株)
44 薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書を作成する。また、成績を日本感染症学会 (2016 年 4 月・仙台)、日本化学療法学会 (2016 年 6 月・神戸)、日本臨床微生物学会 (2017 年 1 月) で報告し、論文を *Journal of Infection and Chemotherapy (JIC)* に掲載する。
 - ・手術部位感染 (SSI) (2 回目・906 株)
37 薬剤の感受性測定結果を解析し、報告書を作成し、成績を日本感染症学会 (2016 年 4 月・仙台)、日本化学療法学会 (2016 年 6 月・神戸)、日本臨床微生物学会 (2017 年 1 月) で報告する。また、論文を *Journal of Infection and Chemotherapy (JIC)* に掲載する。
- 4) 第 7 回 (2015 年)
 - ・複雑性尿路感染症 (3 回目) 及び急性単純性膀胱炎 (2 回目)
収集した菌株の感受性測定を行い報告書にまとめ、成績を日本化学療法学会、日本感染症学会、日本臨床微生物学会で報告する。また、論文を *Journal of Infection and Chemotherapy (JIC)* に投稿する。
 - ・耳鼻咽喉科領域
2017 年 3 月末までに目標の 1,000 株を収集する。
- 5) 第 8 回 (2016 年)

- ・呼吸器感染症（8回目）
2017年3月末までに目標の1,000株を収集する。
- ・尿道炎（淋菌・クラミジア）（3回目）
2017年6月末までに目標の200症例の検体をそれぞれ収集する。

6) 第9回（2017年）

皮膚科領域感染症（2回目）、歯科・口腔外科領域感染症（2回）、小児科領域感染症（初回）のうち2領域を決め、実施準備を行う。

7) ホームページの更新を行う。

10. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会

「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」を公表する予定である。

11. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会

嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂版の各論では、臨床的に使用しやすいものを目指し、平成28年度中のエグゼクティブサマリーの作成を目標とする予定である。

12. レジオネラ治療薬評価検討委員会

1) 収集されたレジオネラ菌（約100株）に対し、各種薬剤のMIC、MIECを東邦大学にて測定し、西日本支部総会で報告する予定である。

2) これまでに収集されたレジオネラ症全例の最終結果のデータ確認、終了後、日本化学療法学会雑誌に投稿する予定である。

13. チゲサイクリン適正使用のための手引き作成委員会

学会主体でチゲサイクリン使用の現状に関するアンケート調査を実施する予定である。

14. 呼吸器感染症臨床評価法の改訂委員会

FDAガイドラインのFinal版が発表されれば、改めて評価ガイドラインの改訂を検討する。

15. 泌尿器感染症臨床評価法の改訂委員会

「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン—第2版—」の刊行を契機として、厚生労働省へ新しいガイダンスの提出をすべく、その論議・作成のため委員会を複数回開催する予定である。

16. 尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン改訂委員会

パブリックコメントをも踏まえ、完成した「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン—第2版—」を日本化学療法学会雑誌64巻3号に掲載する。本ガイドラインに立脚したプロトコールによる臨床試験実施を見越して、その方法を検証する作業開始の準備をする。そのための委員会を複数回開催する予定である。

17. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

「抗菌薬TDMガイドライン2016」を日本化学療法学会雑誌64巻3号に掲載し、冊子版およびポケット版を販売する予定である。

18. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会

歯性感染症のガイドラインを日本化学療法学会雑誌 64 巻 4 号に掲載する予定である。また、腸管感染症および尿路感染症・男性性器感染症のガイドラインの英語版を Journal of Infection and Chemotherapy に投稿し、ガイドライン普及に努める予定である。

19. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会

前回のガイドラインを見直し、2016年改訂版を作成し公表する予定である。

20. 小児用キノロン薬適正使用推進委員会

- 1) トスフロキサシンに関する実態調査のアンケートを送付した。
- 2) 感受性サーベイランスの結果をまとめ、東日本化学療法学会にて委員会報告する。
- 3) アンケート結果をまとめ、検討し、東日本支部総会にて委員会報告する。
- 4) 1回目のアンケート結果をもとに、改めて活動内容を検討し、必要に応じ新たなアンケート調査を行う。

21. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ

平成28年12月24日（土）に東京国際フォーラムで、「耐性菌シンポジウム2016ー1年を総括して来年に備えるー」を開催し、当学会ホームページに講演内容を動画で掲載する予定である。

22. 創薬促進検討委員会

提言第2弾「世界的協調の中で進められる耐性菌対策」に続く提言の発信について議論する。特に、感染制御、抗菌薬適正使用、サーベイランス、そして創薬促進の4本柱をもとに耐性菌対策を実施していくことの重要性について活動が続ける。特に創薬促進に関しては、引き続きその必要性に関して市民公開講座を含め啓発活動を実施するとともに、行政への働きかけ、創薬促進コンソーシアム設立などの活動を行う。

23. 抗微生物薬適正使用推進検討委員

我が国におけるAntimicrobial stewardship (AS) 推進のための提言を公表の予定。更にASを実践するためのガイドラインを作成する予定である。

24. 将来計画検討委員会

創薬促進検討委員会等とも連携しつつ、公益目的事業などを含めて、公益社団法人としての今後の学会活動および四学会合同事業のあり方について検討していく。

25. 特定費用準備資金検討ワーキング

特定費用準備資金の薬剤耐性菌蔓延予防を目的とした社会啓発事業として市民公開講座を企画し、特定感染症全国サーベイランス事業に関する事業としてβラクタム系薬耐性腸内細菌科細菌に関する多施設共同研究を行う予定である。

26. 薬剤耐性感染症を対象とした抗菌薬ガイドライン作成に関する合同委員会

「薬剤耐性菌感染症を対象とした抗菌薬臨床評価ガイドライン」を完成させる予定である。

27. 社会保険委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

28. 利益相反委員会

指針の見直しと改定を検討する予定である。

29. 研究倫理委員会

研究倫理委員会の広報および審査を行う予定である。

30. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成28年10月31日